

ART・JAM IN SETAGAYA

ART
JAM
in SETAGAYA

2021年9月20日(月・祝)～26日(日)世田谷美術館

NPO文化交流機構「円座」に集う造形作家たちによる展覧会
「アート・ジャム in 世田谷」の記録

「この国の美意識」をたいせつに想う
個性派作家たちによる
「新たな時代」に向けての挑戦。

INDEX

ピンチが拓く新たな世田谷版「アート・ジャム」	3P
展覧会 アート・ジャム in 世田谷 展示風景	4P
コンセプト	6P
出品作家	7P
木の実とドライフラワーのリース ～ 自然を暮らしに ～	22P
秋の和菓子とカラーのワークショップ	23P
能楽らいぶ × ライブペインティング	24P
お宝鑑定	25P
アート・ジャム in 世田谷に寄せて	26P
会場一覧	27P

COMMENTS

ピンチが拓く新たな世田谷版「アート・ジャム」

美術評論家 勅使河原 純

いま時代は大きく揺れている。もはや新型コロナ禍と、それに続く変異ウイルス蔓延の影響とばかりはいつてられない。それらを一つの契機として、多くの国では国家同士の烈しいがみ合いが止まらない。これはどうやら、人々の拠って立つアイデンティティーの根底にヒビが入り、壊れはじめた兆候でもあるのだろう。こうした場合美術アートは、不安に慄く人々の魂をやさしく支え、力強く励ましてくれるものであったはずだ。そのことがいま、より

切迫した課題として、とうとうこの「アート・ジャム」にも押し寄せてきたといえよう。

日本画家・杉本洋先生をはじめ、NPO文化交流機構「円座」事務局長の松島美知子氏などは矢も楯もたまず、遂に持続可能なアートをもとめて「この国の美意識をたいせつに想う」という、これまでになかった新テーマへと突き進まれたのだろう。出品者には数多くの個性派が加えられ、会場も青梅市立美術館から都心に近い世田谷美術館へと大きく変更された。

自然の豊かさを満喫してきたこれまでの体験を踏まえ、その成果を孤立無援に苛(さいな)まれる都会の人々にも存分に分かち与えようとする、斬新な試みと受けとりたい。

それにしても、久方ぶりの展示会場は活気に満ちあふれていた。入口正面には鉄による等身大の人物彫刻が三体ならび、来観者たちを暖かく出迎えてくれる。素朴な天衣無縫な表情からくり出されるピンチは、青梅時代のエネルギーを凌ぐといってい

い。軸装にしる額装にしる、日本画家たちの洗練された和の情趣はいうにおよばず、石彫の尖った造形意識にも思わずハッとさせられる。ヒトデのような星型が積み上がって三角のタワーを築くかと思えば、妖精のような小動物たちもユーモラスで可愛らしい。そして今回から加わった、慎重に復元された古の仏像は、静かな佇まいのうちに気高い精神性を漂わせ、いまさらながら日本人と美術の深い関りを、気づかせずには措かないのである。



「アート・ジャム in 世田谷」

2021年9月20日(月・祝)～26日(日)世田谷美術館

- 会期 / 2021年9月20日(月・祝)～9月26日(日) 休館日9月21日(火)
- 会場 / 世田谷美術館 区民ギャラリーA
- 主催 / 特定非営利活動法人(NPO)文化交流機構「円座」





展覧会 CONCEPT

これまでのアート・ジャムでは、自然豊かな青梅・御岳地域をフィールドとして、イベント「青梅アート・ジャム」を開催してきました。過去 10 回の開催では「アートがこの地にできること」を中心のテーマとしつつ毎回違ったコンセプトを掲げ、展覧会やワークショップ、ライブコンサート等様々なイベントを展開しました。

今回の展示ではフィールドを世田谷区に移し、テーマを「持続可能なアートの可能性を探る第一歩」として、素材・色・形・伝統文化が自然から得られる恩恵に注目し、衣食住の中にもアートが息づいていることを見える形で提示することを目指しました。

コロナ禍でこれまでの日常が大きく変化した時期だからこそ、作品の鑑賞者が、ワークショップの参加者が、それぞれの視点でアートと日常との関わりを見出すことで、持続可能な世界のあり方を考える始まりとなれば何よりです。

出品作家

青野 正 / 金属彫刻

江見 高志 / 金属彫刻

暮沼 宏一 / デザイン

古賀くらら / 日本画

塩野 圭子 / 型絵染

杉本 洋 / 日本画

鈴木 寿一 / 陶芸

美術保存修復センター横浜 / 修復作品

鈴木ひろみ / 版画

田中 毅 / 石彫

長倉 陽一 / 日本画

中村 恒克 / 木彫・修復

平井 一嘉 / 彫刻

藤田 飛鳥 / 日本画

前田 純平 / 版画



青野 正 Aono Tadashi

金属彫刻

- 1955年 徳島県に生まれる
- 1980年 東京造形大学彫刻科卒業
- 1992年 第4回口ダン大賞展 美ヶ原高原美術館賞
- 1993年 フジサンケイ・ビエンナーレ現代国際彫刻展 特別賞
- 1994年 アートリゾート朝来 2001 野外彫刻展 in 多々良木 '94 大賞
- 1997年 第2回荒川リバーアートコンテスト 特賞
- 1998年 ヤマの男たちのモニュメント 大賞
第6回東京野外彫刻展 市民賞
- 1999年 第10回川鉄デザインコンペ グランプリモニュメント賞
- 2000年 TUES 2000 TUES 賞
- 2010年 日本芸術センター第2回彫刻コンクール 金賞
- 2013年 青野正 × 高田洋一 ダイアローグ(川口市)
- 2016年 個展 柿傳ギャラリー ('13)(新宿区)
青梅アート・ジャム(青梅市立美術館 / 御岳山荘)
- 2017年 個展 現代彫刻美術館(目黒区)
- 2018年 個展 箱根の森美術館(箱根町)
- 2019年 茶室と現代美術 wabi・sabi (玉島円通寺 / 遊美工房)
- 2020年 個展 巷房('99/02/'03/'05/'06/'09/'11/'13/'15/'18) (中央区銀座)
- 2021年 個展 始弘画廊('19) (港区南青山)

- 鉄人2 (左) 幅 79 × 奥行 60 × 高さ 210cm
- 鉄人1 (中) 幅 88 × 奥行 88 × 高さ 210cm
- 鉄人3 (右) 幅 71 × 奥行 64 × 高さ 208cm
- 鉄花 (下) 幅 7.5 × 奥行 6 × 高さ 30cm





10 作品
11 カラスウリ

16 星座
14 作品

17 作品
09 作品
13 作品

15 作品
19 涙
18 作品

07 作品

06 作品
12 作品
08 作品



江見 高志 Emi Takashi

金属彫刻

1951年 岡山県勝田町生まれ
 1976年 美学校 彫刻工房に入学する
 1981年 東京藝術大学彫刻科卒業
 1983年 東京藝術大学大学院修了
 1986年 山岸鋳金工房に入社、鋳金技術を修得
 1999年 銀地藏工房を開設

個展 五日市禅堂
 Key Gallery KANEKO ART TOKYO
 横浜アートフォーラム
 d-lab gallery
 せせらぎの里美術館

グループ展 あきる野深沢芸術祭
 あきる野美術家連盟展
 青梅アート・ジャム

無題 幅 29 × 奥行 20 × 高さ 35cm
 2031年 幅 23 × 奥行 23 × 高さ 55cm
 虚空 幅 40 × 奥行 40 × 高さ 95cm



暮沼 宏一 Kurenuma Koichi

デザイン

- 1953年 長野市生まれ。名刹 善光寺お膝元の門前町で幼少年期を送る
- 1976年 武蔵野美術大学産業デザイン学科中退
- 1980年 東京藝術大学デザイン科視覚伝達デザイン専攻卒業
- 1980年 味の素株式会社本社制作課入社
商品パッケージ開発・広告制作に従事
- 1982年 欧州各地を単身旅行する
- 1982年 勝井三雄デザイン研究室に勤務
- 1990年 株式会社 ジェネット・アソシエイツ
暮沼宏一デザイン室設立



- 1991年 「最高級茶蕎麦／芳翠」パッケージにて通産省技術功労賞受賞
- 1991年・97年・99年・2001年
日本パッケージデザイン大賞入選

日本デザイナー学院・日本写真芸術専門学校・中小企業大学校等にて講師を務めた後、2008年～東京家政大学造形表現学科教授（～2016）

現在 (株)ジェネット・アソシエイツ／暮沼宏一デザイン室 代表
公益財団法人日仏会館会員





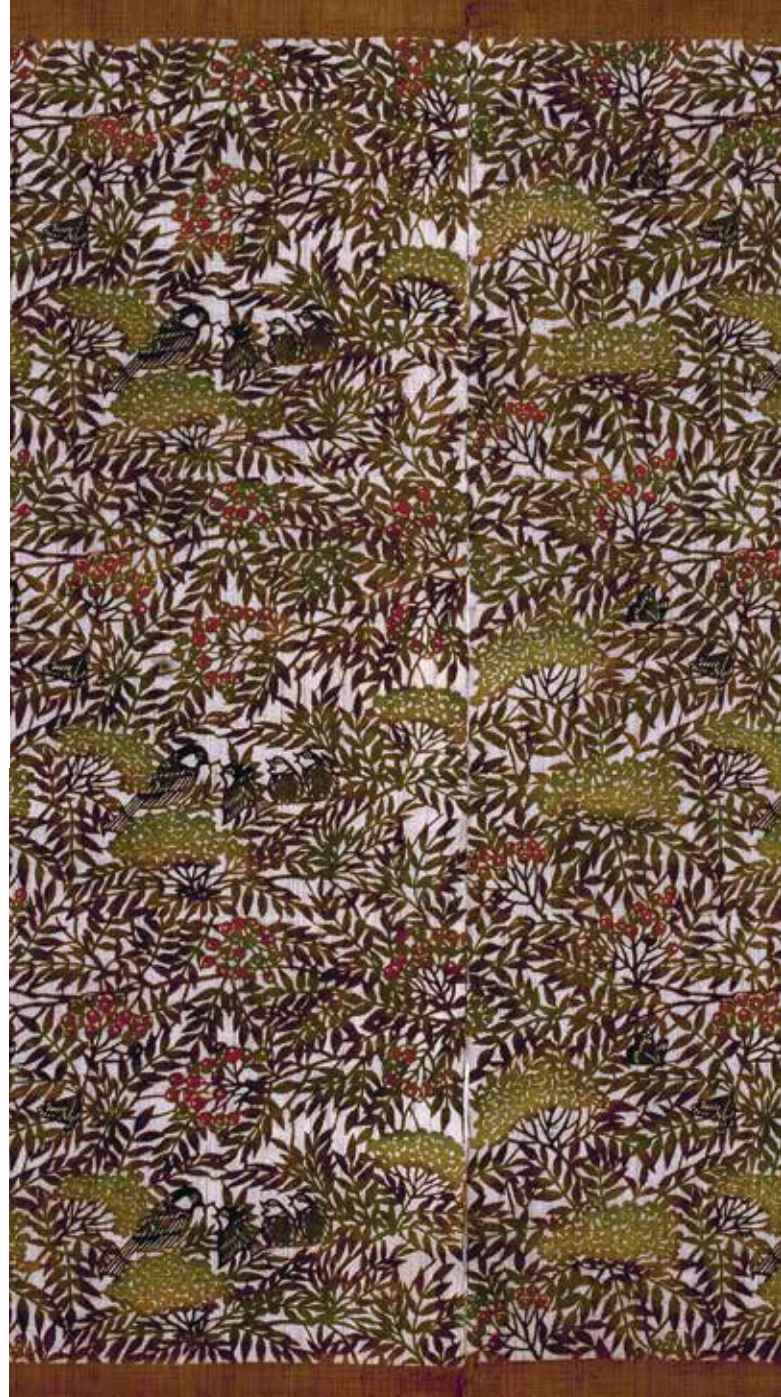
古賀 くらら Koga Kurara

日本画

- 2017年 博士学位論文本審査作品展
「近世画法書を基底とした彩色料とその調合について」
(広島市立大学芸術資料館/広島)
広島市立大学 選抜日本画展
(安芸高田市立八千代の丘美術館/広島)
広島市立大学大学院博士後期課程 修了 博士(芸術)学位取得
- 2018年 個展「古賀くらら 日本画展」
(喜聞堂 アートスペース余花庵/京都)
個展「古賀くらら 日本画展」(天満屋八丁堀店/広島)
個展「古賀くらら 日本画展」(あべのハルカス近鉄本店/大阪)
広島市立大学芸術学部 新任教員展 2018
「古賀くらら 色色」(広島市立大学芸術資料館/広島)
- 2019年 個展「古賀くらら 日本画展」(天満屋福山店/広島)
「けはい けしき しんとして」日本画三人展
(アートスペース余花庵/京都)
個展「古賀くらら 日本画展」(西武福井店/福井)
- 2021年 個展「古賀くらら 日本画展」(神戸阪急/兵庫)
広島信用金庫 日本画奨励賞受賞
- 現在 広島市立大学芸術学部 助教 無所属

- しずか (右) 54.6 × 22.0cm
楮紙、天然岩絵具、土壌顔料、墨、金泥、膠
- やまと (左) 54.6 × 22.0cm
楮紙、天然岩絵具、土壌顔料、墨、金泥、膠
- 色花 染法極秘傳 75.1 × 75.1cm
薄美濃紙、天然岩絵具、土壌顔料、墨、胡粉、
臙、脂綿、朱、藤黄、藍、丹、膠、元結





塩野 圭子 Shiono Keiko

型絵染

- 1954年 東京都生まれ
- 1977年 多摩美術大学染織科卒業
多摩美術大学染織研究室 副手 ※'81年まで
- 1995年 吉村昌也・塩野圭子二人展(奥多摩)
- 1997年 「多摩平和いのち展」
ポツパルトホール(青梅) ※以後 06年まで 毎年
- 2000年 個展「塩野圭子型絵染展」
ギャラリー繭蔵(青梅) ※以後 '20年まで
- 2004年 「小松茂夫・塩野圭子 二人展」
ギャラリーいそがや(港区)
- 2005年 二人展「木のうつわと型絵染め展」
ギャラリーさなぎや(福生)
ワンダフル・ネイチャーランド青梅
「野草と遊ぼう」ナビゲーター、都立農林高校にて
以後小学校等での環境学習ワークショップ多数
- 2014年 個展「塩野圭子型絵染展」
羽村市生涯学習センターゆとろぎ 他

夏の緑の万華鏡 (左上) 高さ 160 × 幅 120cm
いつもの森へ (右上) 高さ 160 × 幅 90cm
水仙花車 (右下) 高さ 100 × 幅 90cm



西限 板浪瀧 (上左) 100 × 35cm
 北限 猪鼻瀧 (上右) 100 × 35cm
 流れ (左) 150 × 40cm
 転生II (中) 15 × 15cm
 転生III (右) 15 × 15cm

杉本 洋 Sugimoto Hiroshi

日本画

1977年 東京藝術大学大学院日本画科 修了
 2004年 文化庁文化交流使に指名、カナダ・ヴィクトリア美術館にて個展
 2017年 御霊神社本宮(奈良)井上内親王御生誕1300年祭プロデュース
 2018年 横浜美術大学 修復保存研究室 特任教授(～3月)
 2019年 一般社団法人 日本文化資産支援機構 設立、
 出雲大社本庁 神楽殿「行灯画」以後毎年
 2020年 丹生川上神社下社 階板絵 制作
 2021年 建仁寺正伝永源院障壁画 修復監修

現在 文化庁文化交流使、日本美術家連盟会員、
 一般社団法人 日本文化資産支援機構 代表理事

収蔵先:

出雲大社大阪分祠神殿襖絵、京濱伏見稲荷神社参集殿壁画、
 地藏院本堂天井画、清岩院本堂襖絵、秋篠宮家、国立司法研修所、
 長徳寺客殿、光徳寺客殿、宝蔵院客殿、武蔵御嶽神社、郷さくら美術館、
 南紀白浜柳屋、介護老人保健施設菜の花、ドイツ・ポツダム市庁舎、
 唐招提寺梵網会団扇絵、東大寺二月堂修二会「紙手」、
 當麻寺中之坊天井画、丹生川上神社下社 個展 35回



鈴木 寿一 Suzuki Toshiichi

陶芸

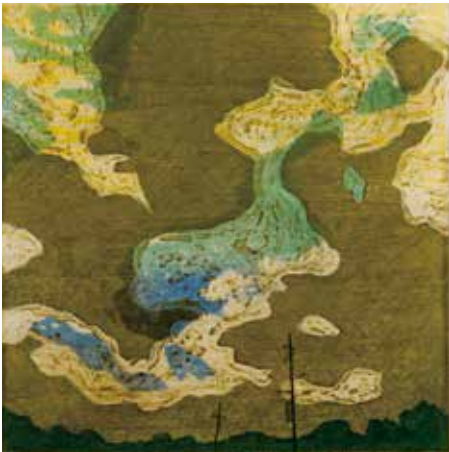
- 1963年 秋田県生まれ
- 1990年 東京藝術大学美術学部大学院陶芸専攻修了
青山桃林堂にてグループ展又は個展(以後毎年)
- 1993年 伝統工芸新作展入選
- 1997年 日本橋三越にて二人展(以後'97 '96)
米の器展(京王百貨店新宿)出品('17まで毎年)
- 1998年 青梅市日向和田に築窯独立
日本橋三越にて個展 (以後'00 '05 '08 '11 '13 '16 '19)
- 2003年 明星大学助手を経て非常勤講師となる('18まで)
- 2005年 中国宣興国際陶芸展招待出品
萬古焼総合コンペ入選
日本クラフト2005出品(以後'06)
- 2007年 青梅アート・ジャム参加
- 2010年 ゼロダテアートプロジェクト(秋田県大館市)参加
- 2011年 ギャラリー素形(京都)にて個展(以後'12 '15 '16 '18)
- 現在 女子美術大学 横浜美術大学非常勤講師
日の出陶房 東京書籍陶芸部 曙窯にて指導
- 作品收藏 中国宣興陶磁博物館



(下写真左より)

- ポット1 11 × 15 × 高さ12cm
- 宝瓶
- 急須2 8 × 12 × 高さ9cm
- ポット2 13 × 18 × 高さ15cm
- 土瓶 13 × 14 × 高さ18cm
- 急須1 11 × 16 × 高さ12cm





夏のおわり (左上) 25 × 25 cm
 風の声 (左下) 25 × 25 cm
 いつか遠ざかる (中上) 24.5 × 24.5cm
 空に近い場所 (中下) 25 × 25 cm
 いつかの夕暮れ時に (右上) 25 × 25 cm
 あの日に戻れたとして (右下) 24.5 × 24.5cm



鈴木 ひろみ Susuki Hiromi

版画

- 1987年 埼玉県久喜市生まれ
- 2010年 横浜美術短期大学(現・横浜美術大学)専攻科絵画クラス修了
- 2011年 個展「誰もいない街」ギャラリーツープラス(銀座)
 青梅アート・ジャム 東日本大震災義援展(青梅市市立美術館 以降毎回参加)
 アートジャム・カナダ CollectiveWorksGallery(カナダ・ビクトリア)
 3人展「woodcut collection 2- 木よりいづるものたち -」
 art Truth(横浜) 以後 毎回参加
- 2012年 個展「どこにもない部屋」ギャラリー上原(代々木上原)
- 2013年 奈良・町屋の芸術祭 HANARART(奈良五條新町エリア)
 個展「風景の向こう側」art Truth(横浜)
- 2014年 個展「見えない月を眺めるように」伊勢丹浦和店
 個展「遠ざかる空」ガレリア・アッカ(入谷)
- 2016年 「青梅アート・ジャム 2016」青梅・御岳山展望台
- 2018年 グループ展「pick up color このめのサップグリーン展」Art Gallery 山手(横浜)
- 2019年 グループ展「となりのかみさま展」松島畫舫(世田谷)
- 2021年 個展「いつか遠ざかる」art Truth(横浜)



田中 毅 Tanaka Tsuyoshi

石彫

- 1951年 宮崎県青島生まれ
- 1977年 東京藝術大学大学院
美術研究科彫刻専攻修了
- 1985年 神戸具象彫刻大賞展 大賞受賞
- 1994年 現代日本具象彫刻展 大賞受賞
- 2000年 むし虫ワールド(群馬県立美術館)
- 2002年 日向現代彫刻展 市民大賞受賞
- 2007年 桜の森彫刻コンクール 町民賞受賞
- 2015年 UBE ビエンナーレ 入選
- 2017年 シンガポール国際ミニチュア彫刻展
(シンガポールビジュアルアートセンター)
- 2019年 第2回枕崎国際芸術賞展 (枕崎市)
- その他 個展、グループ展、
全国にパブリックコレクション多数



粗茶ですが 40 × 29 × 24cm 大王丸 22 × 33 × 43cm チャビー 36 × 25 × 15cm

海へ行こう 51 × 25 × 18cm

道化虫 56 × 24 × 14cm (全て黒御影石)





長倉 陽一 Nagakura Youichi

日本画

- 1985年 東京都生まれ
- 2008年 横浜美術短期大学専攻科造形美術専攻絵画クラス卒業
光の家ボランティア(社会福祉法人 埼玉医療福祉会 光の家療育センター、09年～同施設で絵画指導員となる)
- 2006年 北部横浜美術公募展優秀賞
- 2007年 グループ展第1回百華展(以後2009年までに5回開催)
青梅 ART JAM 2007 ボランティアスタッフ
銀座にて初個展(ギャラリーフォレスト)
- 2008年 横浜美術短期大学専攻科有志 ～卒業制作小品展～
OME・ART JAM + 展示(以後、2016年まで毎年展)
- 2009年 二人展長倉陽一×遠藤武(ギャラリーフォレスト)
- 2011年 横浜美術大学・短期大学「飛翔する作家たち展」
(たまプラーザ東急百貨店)
東日本大震災義援展(以後、2016年まで毎年出展)
- 2012年 ワークショップ狼のお面づくり(青梅市、霞台小学校)
- 2013年 パフォーマンス「送り狼と迎え狼」(吉川栄治記念館)
- 2014年 三人展「Art jam from Japan」(in Canada)
- 2018年 越生町にて個展(ニューサンピア埼玉おごせ)
- 2019年 埼玉県立美術展覧会(埼玉県展)
- その他 グループ展、個展多数



狐の嫁入り 60.6 × 50.5cm
 雨模様 59.4 × 84cm
 春の山 59.4 × 84.1cm



中村 恒克 Nakamura Tsuneyoshi

木彫・修復

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1986年 | 東京都生まれ | 2019年 | 「ART FAIR TOKYO 2019 覚の会— Mission Peace —」
(東京国際フォーラム・ホール E) |
| 2011年 | 東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業 | 2020年 | 長野県善光寺寿量院 阿耨達多童子像制作 |
| 2013年 | 東京藝術大学大学院美術研究科
文化財保存学保存修復彫刻 修士課程修了 | 2021年 | 「個展 - 動勢 -」(横浜高島屋)
神奈川県長谷寺 絆観音菩薩立像制作 |
| 2016年 | 東京藝術大学大学院美術研究科
文化財保存学保存修復彫刻 博士課程修了
博士号(文化財)取得
中村彫刻 開業 | 現在 | 横浜で彫刻家として活動(作品制作・仏像制作・文化財修復)
横浜美術大学 修復保存コース 非常勤講師 |
| 2017年 | 中国長春市高新区黄金纽带園 弘法大師坐像制作 | | |
| 2018年 | 「仏像の姿」～微笑む・飾る・踊る～(三井記念美術館)
神奈川県満願寺 崇源院坐像(江姫)制作 | | |

- | | | | |
|---------------------|------------|-------|-----------------------------|
| 狛犬一雌伏一 | (左) 楠、顔料 | 2020作 | 幅 7.8 × 奥行 11.5 × 高さ 17cm |
| 獅子一雌伏一 | (中) 楠、顔料 | 2020作 | 幅 7.3 × 奥行 11.8 × 高さ 15.8cm |
| 狛犬一忍苦一 | (右) 檜、楠、顔料 | 2020作 | 幅 5 × 奥行 11 × 高さ 14.5cm |
| 木造菩薩立像 修復 | | 2019年 | 幅 17 × 奥行 12.5 × 高さ 32.5cm |
| 京都府宝菩薩院蔵 木造菩薩半跏像 模刻 | | 2021年 | 幅 92 × 奥行 92 × 高さ 180cm |





平井 一嘉 Hirai Kazuyoshi

彫刻

- 1958年 埼玉県秩父市に生まれる
- 1981年 多摩美術大学彫刻科卒業
- 1982年 「第2回高村光太郎大賞」で美ヶ原高原美術館賞受賞 '84年も
- 1983年 多摩美術大学大学院修了
「神戸具象彫刻大賞展 '83」で優秀賞受賞 '85年も
- 1987年 イタリア給費留学生として渡伊
- 1988年 「ナント ピアトラ国際彫刻シンポジウム」で1等賞
- 1989年 「ファンノ国際彫刻シンポジウム」で1等賞
11月帰国
- 1993年 調布市「彫刻のある街づくり」入賞
- 2005年 第2回現代彫刻美術館野外彫刻選抜6人展
- 2006年 個展 干支彫刻作品特集（日本橋三越）
- 2013年 ちちぶ映画祭グランプリトロフィー制作(2014年も)
- 2015年 「デュルビユイ国際彫刻シンポジウム」招待参加(ベルギー)
2017年、2019年も招待参加
- その他 彫刻、石彫シンポジウム多数出品

かげろう(4点組) 大理石



藤田 飛鳥 Fujita Asuka

日本画

- 1976年 京都府生まれ
- 2004年 東京藝術大学大学院後期博士課程単位取得後退学
- 2013年 「紙本の絵画展」
東京芸大日本画 受託研究の経過発表
- 2014年 「日本の生紙展」
全国手漉き和紙青年の集い関連展示
- 2018年 「H7展」
- 2019年 「けはいけしきしんとして-古賀くら 藤田飛鳥 峯石まどか 三人展-」



- | | |
|----------|---------------|
| かまどのかみさま | 55.7 × 28.8cm |
| 楮樹鹿曼荼羅 | 55.7 × 28.8cm |
| 見立て風神雷神図 | 28.8 × 55.7cm |
| みつち | 28.8 × 55.7cm |
| うとろ | 28.8 × 55.7cm |





無題
162.1 × 130.0cm

前田 純平 Maeta Junpei

版画

- 1983年 鳥取県生まれ
- 2007年 23.4 (文房堂ギャラリー／神田)
- 2009年 多摩美術大学版画専攻 卒業
- 2011年 前田純平・柳沢良2人展～渦とマグマ～ (ギャラリー檜 plus／京橋)
- 2012年 第1回 FEI PRINT AWARD (FEI ART MUSEUM YOKOHAMA／横浜)
- 2013年 第2回 FEI PRINT AWARD (FEI ART MUSEUM YOKOHAMA／横浜)
奈良・町屋の芸術祭 HANARART2013 (五條新町／奈良)
青梅アート・ジャム～道具とあそぶ素材であそぶ～ (青梅市立美術館)
- 2014年 Flozen Animals (COCORO STORE／倉吉)
- 2019年 とりののかみさま (松島畫舫／世田谷)

無題
ウォーターレスリトグラフ A.P.
32.7 × 46.6cm





美術保存修復センター横浜

Arts Conservation and Restoration Center Yokohama

作品修復

- 1999年 青木絵画修復工房 設立
- 2011年 特定非営利活動法人美術保存修復センター設立 (青木絵画修復工房合併)
- 2013年 横浜市立浦島小学校
「山下清ペン画」寄付により修復
- 2017年 横浜市開港記念会館
「開港前の横浜村」和田英作 現場にて公開修復
- 2018年 横浜市開港記念会館
「大正期の横浜港」和田英作 現場にて公開修復
- 2021年 真鶴町立中川一政美術館
「海の村落」「福浦」「福浦突堤」寄付により 修復

他、個人様所蔵作品、企業所蔵作品、公共所蔵作品を多数修復。

日本のみならず、毎年イタリア・フィレンツェへ出向き数百年前の公共所蔵作品の修復も行っている。



<修復後>
「虎」和紙、墨 軸装



<修復前>
用紙の黄変が進み、シミが多くみられる。
作品に折り目が多く見られる。



<修復後>
「乗鞍初夏」
田村 一男
F10号
(530 × 455mm)
キャンバス、油彩



<修復前>
全体に経年による汚れと絵具の剥落、浮き上がりが多数ある



木の实とドライフラワーのリース ～ 自然を暮らしに～

日時：2021年9月23日(木) 10:30～12:00

会場：松島畫舫

講師：齋藤公子 (花巧房 LA FONTE 主宰)

ラフォンテ主宰齋藤公子 (さいとうともこ) さんを講師に迎え開催しました。齋藤さんは、文化服装学院を卒業後、服飾メーカーアルファキュービックで、レノマの小物デザインを担当の後、ドライフラワー制作を始めました。現在、ユザワヤ浦和学院でドライフラワー講師を務めています。

参加者は3名、1名は遠方の為、リモートでの参加になりました。リモートでのワークショップは初めてとのことでしたが、説明は大変うまく伝わり、会場と進行状況もリンクし滞りなく素敵なリースが出来上がりました。

花の配置、土台への接着の仕方、花材のまとめ方など、きめ細かに教わりましたが、実際制作してみると意外と難しい工程もあり、無言で取り組む場面もありました。また、次も作りたと思う楽しさに溢れるひとときでした。

「自然の中を散策すると、様々な実に出会うので、是非拾い集めてリース作りに活用してバリエーションを広げてください。」とのコメント後、皆で花材談義を楽しみました。

使用花材： ブラシの葉と実、ヤマイモの蔓、キウイの蔓、バラの実、メタセコイア、コーンフラワー、ヒマラヤスギの実、唐松、ソーラフラワー (豆科のソラの皮)





秋の和菓子と カラーのワークショップ

日時： 2021年 9月 25日(土)

受付 10:30 11:00 ~ 13:00

会場： 松濤ゲストハウス

講師： 諸星みどり (和菓子デザイナー)

鳥沢久美子 (カラーコンサルタント)

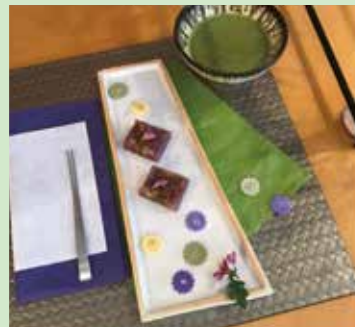
和菓子デザイナーの諸星みどりさんをお招きし、和菓子とカラーで秋の色づかいを楽しむワークショップを開催しました。

お菓子の色にも因んだ伝統色のお話やディスプレイ用和菓子で配色方法を鳥沢が解説した後は、諸星さんへバトンタッチ。皆さんにゴム手袋をしていただき、和菓子作りのスタートです。和菓子ができたら、予めご用意くださった美食のための羊羹とお干菓子をテーブルに用意されたペーパーナプキンと諸星さん作のお皿に各自盛り付けていきます。テーブル上の小さな世界ですが、皆さんの個性がしっかりと表現された盛り付けとなりました。

日頃から和菓子づくりをなさっている方もたくさんいらっしゃり、和菓子の奥深さを改めて感じる機会となりました。当日のテーマカラーを紫と予想して、紫色を着てきてくださった方もありました。窓の広い明るい会場で和気あいあいと和菓子を作り、カラーを意識して和菓子を愛でて盛り付けるワークショップは皆さんにとってもコロナ禍のほっとする時間となったことと思います。

申込者 15名、出席 14名・欠席 1名、欠席者には事務局を通じて後日資料送付済み

鳥沢久美子 (カラーコンサルタント)





能楽らいぶ「光の素足」× ライブペインティング

日時： 2021年9月25日(土) 開場13:00 開演14:00

会場： 松濤ゲストハウス

時間という時間がこれほど長くそして同時に短く感じたのは生まれて初めてだったのではないか。能楽師の中所宜夫さんの謡の声に導かれてスーッと異界に入っていく事ができた。それはここにいるのにここにいない感覚。無重力、時間が存在しない場所だった。どこでどう描いたのか、ほとんどの描いているときの記憶はないがとにかく気持ちがい空間の中に在った。時々とぎれとぎれで入ってくる断片的な言葉は宮沢賢治の世界とつながっていて、「光の素足」のイメージと結びつきさらに描き進めることができた稀有な体験だった。渋谷の松濤という閑静な住宅街にあるプライベートホールの都会の中にある不思議な異界であった。このような貴重な機会を作っていただいたNPO文化交流機構「円座」、そして中所宜夫氏に感謝です。

中津川 浩章 (なかつがわ ひろあき)

画家、美術家、アートディレクター。記憶・痕跡・欠損をテーマに自ら多くの作品を制作し国内外で個展やライブペインティングを行う一方、アートディレクターとして障害者のためのアートスタジオディレクションや展覧会の企画・プロデュース、キュレーション、ワークショップを手がける。福祉、教育、医療と多様な分野で社会とアートの関係性を問い直す活動に取り組む。



アート・ジャム in 世田谷 関連企画
 特別 特定非営利活動法人 文化交流機構「円座」

「中所 宜夫 能楽らいぶ」
 「光の素足」
 ×
 中津川 浩章
 「ライブペインティング」

2021年 9月25日(土)
 開演 13:00 閉演 14:00 観劇料 予定 16:00

松涛スタジオ
 〒152-0246 東京都世田谷区松涛 1-9-23

入場料 3,500円 ※お申し込み・会場には関係ありません。



『光の素足』の一人らいぶは随分久しぶりだ。十代の少年が山中に一人で剣舞を舞う冒頭の場面は、身体を目一杯使ったの勇壮な舞でなければならぬだけに、年齢と家籠りの身に、少し体力的な不安を抱えて始まった。中津川さんのライブペインティングは、その時に感じる波動を受けて、無意識の淵から形を紡ぎ出すと言う。私からの波動はどんな形となるのだろう。そしてそこから私は何かを受け取るのだろうか？始める前、それを楽しみにもしていたけれど、今そんな余裕はない。剣舞で弾む息を収めて山人との問答へ進む。静かだ。彼の動きは殆ど意識に入らない。光の素足の物語は進んで行く。背景で動いているはずだが、それを全く感じない。雨二モ負ケズが始まると、彼はペインティングを止めて片付けを始めた。初めてその動きを感じた。少なくとも意識に上がるものとしては。

終えて見るといつもの一人らいぶだった。けれど一幅の絵が出来ている。それは本当に無意識の形象化としての絵なのだ。その場で破かれた絵は、不思議な感覚を残して消えた。

中所 宜夫 (なかしよ のぶお)

能楽師。シテ方観世流。観世九皇会所属。特別無形文化財総合指定保持者。1958年愛知県生まれ。一橋大学在学中より能楽に志し、観世喜之師の内弟子となる。1988年独立。以降、観世九皇会所属能楽師として数々の演能活動を行い、2018年には老女物の「卒都婆小町」を初演する。また、能楽堂を離れた小規模公演「能楽らいぶ」では、他分野との共演や新しい作品の創作などを展開し、その活動の中から宮澤賢治の世界を能舞台に再現する能『光の素足』を生み出す。

能楽らいぶ「光の素足」×ライブペインティング

能楽は神楽、舞踏のあり、表現的豊かさを活かしています。しかし、その歴史のなかで、人と字の響きによって、時代によって変遷を遂げてきた。アートにも多くの影響を与えています。■観光の素足

能楽らいぶ「光の素足」について

中津川 浩章 (なかつかわ ひろあき)

2021年9月25日(土) 入場料 3,500円
 開演 13:00 閉演 14:00 観劇料 16:00

松涛スタジオ
 〒152-0246 東京都世田谷区松涛 1-9-23

入場料 3,500円 ※お申し込み・会場には関係ありません。

NPO 文化交流機構「円座」 TEL & FAX 03-6321-3424 / enzai@waved2.jp
 特定非営利活動法人 文化交流機構「円座」
 中津川 浩章 nakatsugawa55@hotmail.com



お宝鑑定

日時: 2021年9月22日(水) 12:00 ~ 17:00
 会場: 松島畫舫
 担当: 仙波 誠、嶋津外志彦 (アート・サロン世田谷)

アート・サロン世田谷の仙波誠と嶋津外志彦が担当し、油絵を拝見しました。そのうち1点は、舞妓の名手による作品でしたが、複製画ということが判明し、依頼者は肩を落としました。(某テレビ局での場面を思い出しますね)

お母様がお気に入り大切に掛けて楽しんでいただけたこと。好きな絵と共に暮らしては、心弾みます。是非、あなたのお気に入りを見つけてください。



「アート・ジャム in 世田谷に寄せて」

特定非営利活動法人 文化交流機構「円座」理事長 杉本 洋

全世界を覆うコロナ禍の中での展覧会の企画開催は想像を越える困難なものとなりました。

美術館が急遽閉館し、開催できるか危ぶまれる中を一年以上に渡り無心に作品を制作して頂いた出品作家、三密を考慮して別会場で企画開催された公演とワークショップ、それを細心の配慮

を持って取り纏めて頂いた事務局、来館者へ可能な限りの安心安全対策で開催を受け入れて頂いた美術館、この様な状況下で御来場を頂きました皆様に先ずは心から感謝を申し上げます。

「ARTJAM inSETAGAYA」は2007年からNPO法人「円座」が主催致しました「青梅アート・ジャム」を母体とし

て開催致しました。「青梅アート・ジャム」とは東京都青梅市で青梅市立美術館、武蔵御嶽神社、吉川英治記念館などを会場にして、海外からの多くの作家を含めての作品展示と様々なワークショップ、また東日本大震災義援展などを2016年迄展開して参りました。トリエンナーレ形式で2019年に再開

を予定しておりましたがコロナの影響下で展覧会場が閉館されることなどにより今回の開催になりました。御尽力頂きました関係各位に重ねて御礼を申し上げます。

次回の開催に向けて更なる研鑽を積んで参りますので、引き続き宜しくお願い致します。



会場

世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2 TEL03-3415-6011

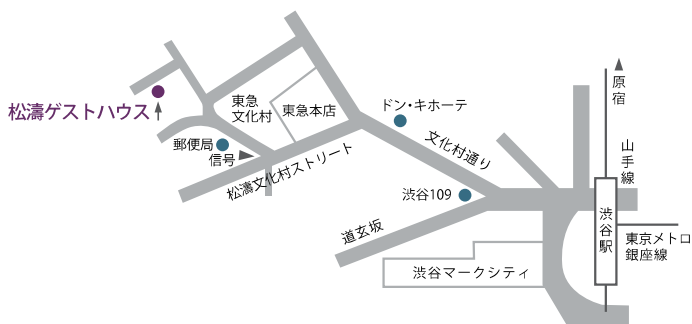
- ・ 東急田園都市線「用賀駅」北口下車
美術館行きバス「美術館」下車徒歩3分



松濤ゲストハウス

〒157-0046 東京都渋谷区松濤 1-9-23

- ・ 山手線「渋谷駅」ハチ公口徒歩 約 10 分

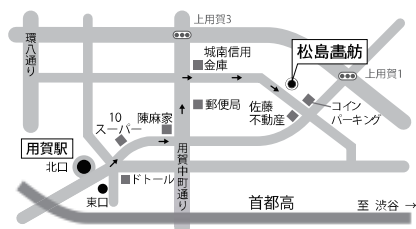


松島畫舫

〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3-25-1

TEL 03-3700-2545

- ・ 田園都市線用賀駅下車 徒歩 7 分



主催

NPO 文化交流機構「円座」

協力・写真提供

(株)ジェネット・アソシエイツ / 暮沼 宏一

記録誌制作

Studio Lesserpanda / 坂内 ひろゆき

松島 美知子

お問合せ

NPO 文化交流機構「円座」

TEL&FAX 03-6321-3424

e-mail: enza@wave.dti2.ne.jp

〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3-25-1

<https://www.npo-enza.com>



特定非営利活動法人 文化交流機構「円座」
NPO Cultural Exchange Initiative : ENZA